



名古屋市港区内  
名古屋、衣浦、三河の愛知県内3  
地法人を設立し、物流需要の獲得  
に力を入れている。

同社は、昭和20年代まで内海や  
近海の貨物輸送に使われていた機  
帆船の船主の集まりを起源とす  
る。機帆船とは発動機と帆を備え  
た小型の木造船をいう。

太平洋戦争中、名古屋港で輸送

せた。

愛知海運(本社名古屋市港区内名  
港)は、港湾運送事業を中心とし、  
名古屋、衣浦、三河の愛知県内3  
地法人を設立し、物流需要の獲得  
に力を入れている。

同社は、昭和20年代まで内海や  
近海の貨物輸送に使われていた機  
帆船の船主の集まりを起源とす  
る。機帆船とは発動機と帆を備え  
た小型の木造船をいう。

太平洋戦争中、名古屋港で輸送

せた。

昭和30年代中ごろからは、  
輸出品の陶磁器輸入品の原  
木の取扱量が飛躍的に増え、  
同社の業績も右肩上がりに  
伸びた。名古屋港の発展と歩  
みを踏んで成長を遂げた。

しかし、その後の中部地  
方の産業構造は急速に変化  
し、名古屋港でも自動車や  
電化製品に関連する貨物が  
取り扱いの中心になつてい  
た。陶磁器の取り扱いで  
業績が安定していた同社  
は、新しく増えた貨物に目  
に向けることがなかつたこ  
とから、新規の物流需要は  
他社に奪われるばかりだつ

た。当時を知る森田昭良名誉会長  
は、「時代の急激な変化に乗り遅れ  
てしまつ」と振り返る。

事業に携わっていた機帆船船主た  
ちが、政府の統制令を受け、愛知  
海運の前身となる愛知機帆船回漕  
統制組合を結成した。1943年には、同組合の加藤  
繁一組合長が初代社長となり、愛  
知機帆船運送を設立した。

戦後、機帆船で石炭などの輸送  
を行なうながら港湾運送事業にも進  
出。50年に愛知海運に社名変更し  
た後は、朝鮮特需、神武景気の恩  
恵もあり、貨物の取扱量を拡大さ

せた。

昭和30年代中ごろからは、  
輸出品の陶磁器輸入品の原  
木の取扱量が飛躍的に増え、  
同社の業績も右肩上がりに  
伸びた。名古屋港の発展と歩  
みを踏んで成長を遂げた。

しかし、その後の中部地  
方の産業構造は急速に変化  
し、名古屋港でも自動車や  
電化製品に関連する貨物が  
取り扱いの中心になつてい  
た。陶磁器の取り扱いで  
業績が安定していた同社  
は、新しく増えた貨物に目  
に向けることがなかつたこ  
とから、新規の物流需要は  
他社に奪われるばかりだつ

## 老舗探訪

□□ 216

# 名古屋港と共に成長 物流で製造業支える

愛知海運 一九四三年創業 名古屋市

月曜 スマイル

火曜 老舗探訪

水曜 達人

木曜 メディカル

金曜 こだわりの旅

土曜 クリエイティブライフ



いまも愛知海運の内航運送を担う「第8愛翔」

大幅に増えた。  
鉄スクラップ  
の荷役を開始し  
たことは、鉄ス  
クレップのよう  
なバルク(ばら  
積み貨物)の取  
り扱いのノウハ  
ウを構築するき  
つかけにもなつ  
た。積み下ろし  
に使う重機の操  
作法など、バル  
クの扱いに特化  
した技術は、今  
でも大きな強み  
だ。

こうした停滞期から脱却する転  
換へとつながった。「昭和40年代  
後半まで、名古屋港では国の認可  
料金『タリフ』での港湾運送の取  
引が続けられていた。タリフの大  
幅な値上げによって、当社はから  
くらっپの荷役作業だ。80年に、  
米国から輸入される鉄スクラップ  
機となつたのが、衣浦港での鉄ス  
クラップの荷役を初めて請け負つた。それ  
が成功すると、衣浦港に鉄スクラ  
ップを積んだ大型船が続々と入港  
するようになり、同社の取扱量も  
木質バイオマスの荷役まで範囲が  
広がつた。

93年には航空機産業の物流にも  
参入した。富士重工業が半田工場  
で製造する「ボーイング777型」  
の翼と本体の接合部品を輸送する  
業務を獲得した。半田工場から龜  
崎港までの陸送と、龜崎港から名  
古屋港までの内航船による輸送を  
担つた。

愛知海運にとって航空機部品の  
取り扱いは、鉄スクラップに次ぐ  
大きな転機となつた。それまでに  
ない精細な作業を経験することで、  
輸送技術を向上させた。

一度は産業構造の変化に乗り遅  
れたものの、新たな挑戦を繰り返  
したこと、現在も中部地方の多  
様なモノづくりを物流面から支え  
る存在であり続ける。